



フジテレビ 
CSRレポート
2019
FUJI TELEVISION CSR REPORT 2019

フジテレビのCSR

Our Corporate Social Responsibility

伝える、変える

SDGs

— Transforming our World —

私たちは
テレビの強みを活かし、創造力と発信力で
SDGsをはじめとする
社会課題の解決に努めて参ります。
「伝える」ことで世界を「変える」きっかけづくりが
できればと願っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs(Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)とは、2015年9月の国連サミットで採択された国際目標のことで、貧困・飢餓をなくす、質の高い教育、ジェンダー平等、気候変動対策など17のゴール・169のターゲットで構成されています。2030年までの解決をめざしており、達成には多様なパートナーシップが求められています。

CSR活動方針

フジテレビでは、メディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006年6月からCSR専門部署を設け、多岐にわたるCSR活動を行っています。映像コンテンツ・エンターテインメントを通じて人々に楽しさ、感動を与え、放送文化に寄与するという社会的使命を認識し、それにより世の中の社会課題の解決につなげていくことを目標としています。

CSR推進体制

社長を委員長とする「CSR推進会議」の体制は右記のようになっています。社長・役員・局長が出席する「CSR推進会議」を年1回開催し、年度の活動報告ならびに次年度の活動計画を審議しています。



CSR推進会議プロジェクトチームメンバー

フジテレビのCSR活動の軸となっているのは、各局から選抜されたCSR推進会議プロジェクトチームメンバーです。月1回、活動報告や情報交換を行う会議を開催している他、週1回の分科会で新しい企画を検討、「ボトムアップ型」のCSR活動を実施しています。また、メンバーを毎年入れ替え、社内のCSRに対する理解の浸透を図っています。



2018年度 CSR推進会議プロジェクトチームメンバー

「CSRレポート2019」編集方針

本レポートはフジテレビが2018年度に行ったCSR活動をまとめたものです。本業である放送事業とエンターテインメントを活かして、フジテレビらしさを大切に多岐にわたる活動を行ってきました。活動内容はホームページを通じて随時公表していますが、本レポートはより読みやすく、みなさまにご理解頂きやすいように編集しました。ホームページとあわせてご覧ください。 <https://www.fujitv.co.jp/csr/>

ご意見、ご感想などございましたら是非お寄せ下さい。

● フジテレビ総務局 放送文化推進センター CSR推進室 ☎ csr.ss@fujitv.co.jp

対象範囲

本レポートにおける対象範囲はフジテレビを基本とし、一部の活動実績は、フジ・メディア・ホールディングス、フジサンケイグループとして実施したのも掲載しています。

対象期間

2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)

トップメッセージ Top Message



2019年3月にフジテレビは開局60周年を迎えましたが、放送を主軸とする様々な業務の中で、CSR活動は比較的新しい取り組みになります。しかしながら社会の変化とともに、CSR活動は企業が取り組むべき重要な課題のひとつとなり、これはフジテレビにおいても同様と言えます。

この60周年という大きな節目を迎えるにあたり、フジテレビでは未来に向けた企業理念として「挑戦と創造」という言葉を制定致しました。これはメディアとしての社会的責任を果たすとともに、視聴者やステークホルダー、ここで働く人の誰もが、心がわくわくするような社会を創っていくための価値観を表明したものです。

こうした社会をめざす指標として、「SDGs(持続可能な開発目標)」という言葉が聞かれるようになりました。この報告書でも2017年度から、該当する活動にSDGsのアイコンを付けていますが、SDGsの課題解決に取り組む人々を紹介するレギュラーミニ

番組「フューチャーランナーズ〜17の未来〜」は、2018年度の第2回「ジャパンSDGsアワード」においてメディアとして初めて「SDGsパートナーシップ賞(特別賞)」を受賞しました。また、2018年12月には世界のメディアにSDGs達成のための活動を促す国連の枠組み「SDGメディア・コンパクト」にも署名しました。

このように放送という本業を通じて、これからも社会課題の解決や持続可能な社会の実現に向けて、活動を継続して参りたいと思います。

2019年6月



株式会社フジテレビジョン 代表取締役社長
President and Representative Director

宮内正喜

フジテレビの親会社であるフジ・メディア・ホールディングスは 2018年4月より「国連グローバル・コンパクト」に署名しています。



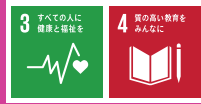
「国連グローバル・コンパクト」とは、企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する取り組みです。「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開しています。

フジテレビは2018年12月に「SDGメディア・コンパクト」に署名しました。

「SDGメディア・コンパクト」とは、世界中の報道機関やエンターテインメント企業に対し、その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みです。

1

未来を創る 子どもたちのために



アナウンサーの出前授業「あなせん」	07
“体験”することで好奇心を育てる	08
食育出前授業「ハロー！どっこくん」	09
難病と闘う子どもたちへの支援	09
次世代のクリエイターを育てる取り組み	10
未来のアスリートを育成	10

2

誰もが生きやすい 社会のために



東京オリンピック パラリンピックに向けて	11-12
コンテンツにおけるバリアフリー	13
FNSチャリティキャンペーン	14
高松宮殿下記念世界文化賞	14

3

地球環境のために



環境番組を継続放送	15-16
環境美化活動	17
リサイクル・省資源への取り組み	17
地球環境大賞	18
地球環境のための社内の取り組み	18

4

災害復興支援



「ずっとおうえんプロジェクト」	19
「東北・みやぎ復興マラソン」	20
「こども笑顔プロジェクト」	20
災害報道 ー伝える責任ー	21
放送を継続する責任	22

特集 5-6

SDGsをテーマにしたレギュラー番組

フューチャーランナーズ
～17の未来～



5 視聴者とともに	23
6 人材育成と職場環境	24
7 マネジメント	25-28
8 第三者意見	29-30



社会課題に向かって走る人たちをミニ番組で毎週紹介 SDGsをテーマにした地上波レギュラー番組を放送 『フューチャーランナーズ～17の未来～』

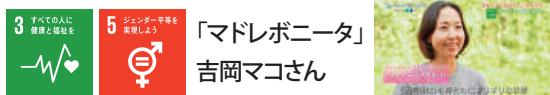
テレビの強みである「発信力」と「クリエイティブ能力」を活かして、SDGsをテーマにしたミニ番組『フューチャーランナーズ』を制作・放送しています。課題解決に向けて熱心に取り組む人たちを紹介することで、SDGsを身近に感じてもらうとともに、多様な活動が認知されパートナーシップを生むきっかけになればという思いで企画しました。

- 2018年7月～9月 / 2019年1月～3月
フジテレビ(関東ローカル) 毎週日曜 17:25～17:30 放送
- 2019年4月～
フジテレビ(関東ローカル) 毎週水曜 22:54～23:00 放送
BSフジ(全国) 毎週土曜 21:55～22:00 放送

放送内容例

出産した女性の心身をサポート

[2018年7月8日 放送]



産後女性の心身のサポートを全国で展開する「マドレボニータ」の吉岡マコさん。自らの体験から産後うつ・乳児虐待・夫婦の不和は、すべて産後が発端となっていると考え、「産後ケアが社会復帰の重要な鍵」との思いで活動を続けています。

高校生の課外授業にSDGsを導入

[2018年9月30日 放送]



山藤旅間先生は、2016年からSDGsを課外授業に取り入れています。生徒たちが取り組みたいテーマを提案し、先生が実現に向けてサポート。実際に企業に提案したりと実践的な教育を行っています。

2018年7月～9月放送 ラインアップ

- やながわ有明海水族館館長 小宮春平さん
- 認定NPO法人「マドレボニータ」 吉岡マコさん
- 佐賀市上下水道局水道施設課長 花島勲さん
- NPO法人自立生活サポートセンター「もやい」代表 大西連さん
- NPO法人ディーセントワーククラブ代表理事 中尾文香さん
- 有限会社「海の種」 金城浩二さん
- 早稲田大学GSセンター学生スタッフ 春藤優さん
- こども食堂「だんだん」 近藤博子さん
- 首里城公園友の会事務局副会長 高良倉吉さん
- 落語家 桂歌助さん
- 少子化ジャーナリスト/相模女子大客員教授 白河桃子さん
- シンクタンク・ソフィアバンク代表 藤沢久美さん
- 都立武蔵高校教諭(当時) 山藤旅間さん



2019年1月～3月放送 ラインアップ

- 国際協力NGOジョイセフ理事長 石井澄江さん
- 認定NPO法人ブリッジフォースマイル理事長 林恵子さん
- NPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム事務局 五十嵐実さん
- Hap株式会社代表取締役社長 鈴木素さん
- 岡山県西粟倉村地方創生特任参事 上山隆浩さん
- 認定NPO法人テラ・ルネッサンス理事 鬼丸昌也さん
- 渋谷区役所男女平等・ダイバーシティ推進担当課長 永田龍太郎さん
- 岡山県奈義町まちづくり戦略室主事 遠山健一朗さん
- 株式会社福市社長 高津玉枝さん
- 宮城県漁協志津川支所 後藤清広さん
- 公益財団法人そらぶちキッズキャンプ事務局長 佐々木健一郎さん
- 株式会社アベックス社長 芳子ピューエルさん

フューチャーランナーズ ～17の未来～



マルチプラットフォームで展開

『フューチャーランナーズ』は、多様なステークホルダーによるパートナーシップを築くため、マルチプラットフォームで展開しています。放送内容は公式ホームページでも視聴可能である他、「FNN.jpプライムオンライン」では記事として再編集して掲載、更にBSフジでも放送しています。また、2019年3月から英語字幕を付与しています。



- 公式ホームページですべての放送を配信
<https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>
- ニュースサイト「FNN.jpプライムオンライン」で放送内容を記事化し、更に詳しく発信
<https://www.fnn.jp/programs/YMO0094>
- 2言語で放送
2019年3月から英語字幕を付けて放送しています。



番組公式ホームページ

第2回「ジャパンSDGsアワード」 パートナーシップ賞受賞！



2018年12月21日に総理官邸で表彰式が行われた第2回「ジャパンSDGsアワード」(主催:SDGs推進本部-本部長 安倍総理大臣)で、フジテレビの『フューチャーランナーズ』を通じた取り組みが、SDGs/パートナーシップ賞(特別賞)を受賞しました。メディアとしては初めての受賞です。



国連本部での「世界テレビ・デー」 イベントで紹介されました。

2018年11月21日の「世界テレビ・デー」に合わせた国連のイベントの一環で、映像コンテンツを通じたSDGsへの取り組み例として当番組がピックアップされ、ニューヨーク国連本部でプレゼンテーションを行いました。

※World TV Day 2018: Lights, Camera and Action on the SDGs ~The power of storytelling to create change~



1

未来を創る 子どもたちのために



出前授業で子どもたちの伝え合う力をサポート

アナウンサーによる出前授業 「あなせん」プロジェクト

“伝えるプロ”が

出前授業を通じて子どもたちの
コミュニケーション能力の向上に貢献

「あなせん」(=アナウンサー先生)は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートした出前授業です。子どもたちのコミュニケーション能力の向上のお手伝いをしたいという思いから企画され、キャリア教育の要素も盛り込み、ニーズに即して発展させてきました。[実施エリア:フジテレビの放送圏内(関東1都6県)]



スマートフォンなどの普及により、子どもたちのコミュニケーション能力の低下が指摘されています。話し方、聞き方、伝え方の「コツ」をアナウンサーが教えるとともに、キャリア教育の一環としてテレビ局の仕事を知ってもらう機会を提供しています。

対象：小学校3年生～6年生
講座内容：[スピーチ][インタビュー][音読]
「あなせん」 <https://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>



私たちが大切にしているのは、
Face to Faceのコミュニケーション
「伝え合う力」は「生きる力」に
つながると信じて活動を継続

他団体とのコラボ



●2018年12月17日
東京文化会館のアウトリ
ーチ活動とコラボした
「あなせん」を実施
[台東区立上野小学校]



●2018年10月17日
スミセイアフタースクールの
出前授業のプログラム
として、技術チームと「あな
せん」のコラボ授業を実施
[墨田区立梅若小学校]

2018年度 **14ヶ所 1,207人** を対象に実施 (イベントでの開催分は含まず)

2005年度からの累計 **225ヶ所 16,937人**

(2019年3月末現在)

“体験”することで好奇心を育てる

社内見学ツアー「のぞいてみよう!フジテレビ」



「テレビ局ってどんなところ?」そんな好奇心に応えるため、小学5年生から大学生までのグループを対象に社内見学ツアーを行っています。番組のスタジオ・美術セットが並ぶ倉庫・技術エリアなど、テレビの舞台裏を見学しながら、放送が視聴者のもとに届くまでの仕組みを楽しく学びます。

[2018年度 見学ツアー参加者3,788人]

「のぞいてみよう!フジテレビ」 <https://www.fujitv.co.jp/kengaku/>

夏休み特別企画

「縄電車deのぞいてみよう!フジテレビ」を実施

通常は学校単位で行う見学ツアーを、夏休み特別編「縄電車deのぞいてみよう!フジテレビ」として開催しました。2日間・4回のツアーに840人の応募があり、177人が当選。通常の見学案内に加え、本番後の『バイキング』のスタジオでカメラに触れたり、スタジオ副調整室の機材を実際に操作するなど、テレビ技術の一端を体験することでテレビ局の仕事を知ってもらいました。また、フジ・メディア・ホールディングスの株主様向けにも3回開催しました。

[2018年8月6日・16日 開催]



職場体験 お台場学園の中学生を受け入れ

近隣のお台場学園港陽中学の2年生4人を、職場体験として受け入れました。総務の仕事、アナウンサーの話し方講座、報道、情報番組『ノンストップ!』や『バイキング』のスタジオ見学など、テレビ局の仕事を3日間にわたり体験しました。

[2019年2月5日~7日]



国立科学博物館で特別展「昆虫」を開催

上野の国立科学博物館にて特別展「昆虫」を開催しました。約2mの巨大な昆虫模型や、展覧会独自にマダガスカルで発見した新種(未記載種)の展示など、他の昆虫展では見られない内容で、多くの昆虫好きの子どもたちが来場しました。また、子どもたちに昆虫世界の魅力や可能性を広く感じてもらえるようその新種の昆虫に、来場者の中から当選した小学2年生の女の子の名前を付けるという特別企画も実施しました。

[2018年7月13日~10月8日開催 総来場者数約44万3,000人]



©丸山宗利



子どもたちの明るく健康的な育ちをサポート

食の大切さを伝える食育出前授業

「ハロー!どっこくん」

季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせや「どっこくん体操」などで構成された楽しいプログラムです。2010年にCSR活動の一環としてスタートし、全国に広がっています。幼稚園・保育園での出前授業に加え、被災地を含む各地のイベントでも数多く開催しました。

※被災地復興支援につきましては、19ページをご参照下さい。



©フジメディア・ホールディングス/CSR2010



公式ホームページも充実!

「どっこくん体操」や「快ウソおみくじ」がスマートフォン・タブレットからも楽しめます。

■「ハロー!どっこくん」

<https://www.fujitv.co.jp/csr/dokko/>



実施した園の園長先生から頂いたメッセージ

いつも、便が出ずに苦しんでいた子が今日は、食事後「出た!」と嬉しそうに報告に来てくれました。「どっこくん体操」、続けていきたいと思います。

2018年度に **17**ヶ所に伺い、約**2,600**人と出会いました!

2010年2月からこれまでに **178**ヶ所 約**21,300**人を対象に実施

(2019年3月末現在)

難病と闘う子どもたちへの支援

「そらぶちキッズキャンプ」

フジテレビは「そらぶちキッズキャンプ」の活動趣旨に賛同し、2009年からキャンプでの朗読会や食育イベントを開催しています。また、「東京マラソン」チャリティランの寄付先になっているため、放送を通じて紹介するなどのサポートをしています。

2018年度は、冬のキャンプで榎並大二郎アナウンサーの朗読会を開催。得意の太鼓の演奏も披露し、子どもたちと一緒に叩いたり楽しい時間を過ごしました。[2019年2月16日 開催]



公益財団法人「そらぶちキッズキャンプ」とは?

北海道滝川市にある医療施設を完備したキャンプ施設。小児がんや心臓病などの難病と闘う子どもたちやその家族が、自然の中で笑顔で楽しい時間を過ごせるようにとつくられ、2016年に国際難病児キャンプ団体「シリアスファンチルドレンズネットワーク」のフルメンバーの資格を東アジアで初めて取得しました。



次世代のクリエイターを育てる取り組み

第5回「ドラマ甲子園」

高校生のための脚本・演出家発掘プロジェクト。大賞作品は、執筆した高校生本人の演出でテレビドラマ化されます。第5回「ドラマ甲子園」大賞受賞作品『キミの墓石を建てに行こう。』は愛するものを失った大学生2人が、その愛したもので結ばれていく。その絆を描いた切ない感動ストーリー。また、作品ができていくまでの監督に密着したメイキング番組も「フジテレビTWOドラマ・アニメ」で放送され話題になりました。若い才能を応援し、次世代のクリエイター発掘と育成をめざして、これからも高校生を支援していきます。

・ドラマ本編：2018年10月28日 19:30~20:30 放送
・メイキング：2018年10月28日 19:00~19:30 放送



第30回「ヤングシナリオ大賞」

今までたくさんのシナリオライターを発掘、育成してきたこの賞は2018年度に30回目を迎えました。今回の応募総数は1,463編。大賞を受賞したのは史上最年少14歳の中学生、鈴木すみれさん(作品名『ココア』)でした。次世代のドラマと一緒に作りあげる才能を発見するべく、これからも制作陣総動員で審査にあたります。

[2019年1月4日 23:00-24:40 放送]



未来のアスリートを育成

第71回「春高バレー」

「全日本バレーボール高等学校選手権大会」として高校バレー日本一を決定するこの大会を日本バレーボール協会、全国高等学校体育連盟とともに主催、全試合を放送しました。地上波での放送に加え、BSフジでは決勝ハイライトを、CS※では1回戦から準決勝までの男女全試合を放送。更に今回初めて「SPORTS BULL(スポーツブル)」とタッグを組み「バーチャル春高バレー」を開設し、94試合のライブ配信を中心に全102試合を無料配信することで、大会の盛り上げに成功しました。東京2020に向け、新たなスター誕生への期待を込めて「春の高校バレー(春高バレー)」をより多くの視聴者にお届けし、バレーボールの普及・発展、及び次世代アスリートたちの育成に貢献しています。

[2019年1月5日・6日・7日・12日・13日 開催]

※フジテレビONEsmart/TWOsmart/NEXTsmart+特設チャンネル

春の高校バレー
第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会

「バボキャラ」

三屋裕子さんをはじめとするバレーボールの元全日本代表選手が全国の高校チームに赴きコーチングをレクチャー、その教えを基に高校生が地域の小中学生にバレー指導をする「バレーボールコーチングキャラバン」。東日本大震災被災3県の復興支援活動を主目的とし、バレーボールを通じた地域の活性化、バレーボールの普及、青少年の育成をめざしています。2018年度は岩手、宮城、福島、沖縄で実施し、バレーを通じて各地で絆を深めました。

[2018年9月~2019年3月の期間中 7回開催]



誰もが生きやすい 社会のために



東京オリンピック・パラリンピックに向けて

社内2020プロジェクト始動！

2020年に東京で開催される東京オリンピック・パラリンピック。1964年以来56年ぶりに日本で開催されるスポーツの祭典に向け、社内横断プロジェクト「チーム2020」を発足させ、地域とも連携しながら様々なレガシーを残せるよう取り組みを始めています。

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加



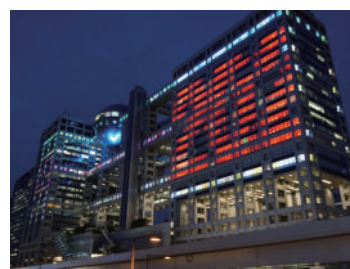
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルを使用済みの小型家電から製作するプロジェクトに参加。フジ・メディア・ホールディングス各社にも呼びかけをし、不用になった携帯電話などの小型家電、放送機材、イベント後に廃棄処分になる電源ケーブルなどを本プロジェクトに寄付しました。

回収した小型家電等の総重量

12t896kg (2019年3月末)

オリパラ2年前をライトアップで発信！

社屋イルミネーション「グリッター8」を活用し、東京オリンピックまであと2年という節目の2018年7月24日夜に、五輪マークの5色を彩ったスペシャルイルミネーションを実施しブームアップに貢献しました。また、東京パラリンピックまで2年前の8月25日夜には、パラリンピックのシンボル「アギトスカラー」の赤・青・緑をモチーフに躍動感あふれるライトアップを実施。臨海副都心エリアにある自由の女神像、パレットタウン大観覧車、東京ビッグサイトとも連動しました。



TOKYO 2020 2 YEARS TO GO

インバウンドに向けて

年間3,000万人を超えた訪日外国人。今後増加が見込まれるインバウンドに向けて様々な取り組みを始めました。2018年12月22日～2019年1月6日限定で、フジテレビ・球体展望室「はちたま」の営業を2時間延長したり、フジテレビ公式SNS(英語・中国語)を通じて在日・訪日外国人及び海外に向けて、東京オリンピック・パラリンピックやエンタメ情報を中心に、日本の情報を発信しています。



● 公式英語版 Facebook(全世界向け/フォロワー30万人)
<https://www.facebook.com/fujitelevision.eng/>

● 「Japanese Manners」フジテレビ公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/watch?v=PLV14T3ik5E>

パラスポーツの魅力を発信

■ パラスポーツ応援プロジェクト『PARA☆DO!』

『PARA☆DO!』は、2020年に向けてパラスポーツのムーブメントを起こし、障害の有無に関係なく誰もが互いを認め合い、いきいきと生活できる共生社会の実現に向けて、パラスポーツを応援していくプロジェクトです。地上波レギュラー番組では、2020をめざすアスリートはもとより、様々な「想い」を抱く「人」に焦点をあてた物語を発信してきました。また、2018年度はイベントでも東京都・川崎市・渋谷区などのご協力を得て、直接パラアスリートの想いを伝える機会を作り、より身近に感じて、考えて頂く場を提供しました。2020に向けパラスポーツの熱をより多くの方々に届けられるよう、今後も様々な形で情報発信を行っていききたいと思います。



毎週水曜日22:54~23:00放送(関東ローカル)
2019年3月末放送終了



『PARA☆DO!』ポータルサイトでは、アーカイブ、SNSなども展開 <https://www.fujitv.co.jp/sports/parado/>

誰もが生きやすい社会のために

■ 臨海副都心アウェアネスカラーライトアップ

ライトアップを活用し社会課題への支援の意思を発信しています。街全体をアウェアネスカラーで照らすことで、社会課題を「知ってもらう」きっかけを提供し解決につながる取り組みで、多様な価値を認め合うダイバーシティ社会をめざして臨海副都心全域で実施しています。

【参加施設・企業】 東京ゲートブリッジ、東京ビッグサイト、レインボーブリッジ、パレットタウン大観覧車、自由の女神像、デックス東京ビーチ、乃村工藝社



4月2日 自閉症への理解を広げるためのライトアップ

■ 2018年度ライトアップ一覧

- 4月 2日 世界自閉症啓発デー(ブルー)
- 5月 5日 LGBTを含むあらゆる差別・偏見をなくす(6色レインボー)
- 9月21日 国際平和デー 世界平和を考える(白・ピースマーク)
- 10月 1日 乳がんの予防啓発(ピンクリボン)
- 10月16日 臓器移植への理解促進(グリーンリボン)
- 11月 1日 児童虐待防止(オレンジリボン)
- 11月12日 女性に対する暴力の根絶(パープルリボン)
- 12月 1日 世界エイズデー(レッドリボン)
- 1月20日 障害者権利条約が日本で発効(イエローリボン)

PICK-UP

衣服のリサイクルでパラスポーツを支援!

「ふくのわプロジェクト」

フジテレビモールで「ふくのわプロジェクト」を開催しました。

このイベントは産経新聞社が主催。不用になった衣類を回収し専門業者に買い取ってもらい、その収益をパラリンピック競技団体に寄付する

ものです。当日は、多くの方が着なくなった衣類を持ってきてくれました。集まった衣類は全部で453kg、同時に開催したチャリティセールの売り上げも6万600円となりました。今回はドレスメーカー学院の学生が制作したリクチュールドレスの展示も行われ、SDGsの各テーマをモチーフとした個性的な力作が勢揃いしました。[2018年12月20日 開催]



PICK-UP

番組を通じて自閉症やLGBTへの理解を促進

『グッド・ドクター』

自閉症スペクトラム障害でコミュニケーション能力に問題を抱える一方、驚異的な記憶力を持つサヴァン症候群である主人公の小児外科後期研修医が、周りからの偏見や反発にさらされながらも、純粋な心で子どもたちの命のために闘い、笑顔で包み込む姿を描きました。また、“本当に良い医者とは？”というテーマについても考えさせられるドラマとなりました。主演：山崎賢人
[2018年7月12日～9月13日 放送]



『ザ・ノンフィクション』

マキさんの老後 ～人生傷だらけ～
[2018年4月15日 放送]
マキさんの老後 ～意外な素顔～
[2019年1月6日 放送]

25年間連れ添うゲイの夫・マキさんとレズビアン妻・ジョンさん夫婦。たまにケンカもするけれど、お互いなくてはならない大切な存在。そんな彼らのリアルな日常を描いた人気シリーズは8回を数え、LGBTの理解にもつながっています。

コンテンツにおけるバリアフリー

■ 字幕放送 7時～24時のすべての収録番組(生放送以外の番組)に字幕を付与

主に聴覚障害者や高齢者などテレビの音が聞こえにくくなった方々に番組を楽しんで頂くために、テレビの音声で「文字」にして画面に表示する字幕放送を行っています。ドラマのセリフや番組のトーク部分、効果音も字幕で表示し、内容を十分ご理解頂けるようにしています。ニュースなどの生放送では、「生字幕」(ほぼリアルタイムで字幕を付けること)の付与を進め、更に生放送のバラエティやスポーツ中継等についても積極的に字幕を付けています。CM字幕放送も増やしていくべく対応を進めています。

2017年度実績 付与可能時間に対するフジテレビの付与率 100% 総放送時間に対するフジテレビの付与率 58.5%

■ 解説放送

目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために、副音声を使って画面の解説を行う解説放送を行っています。場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明します。

2017年度実績

付与可能時間に対するフジテレビの付与率 14.5%

総放送時間に対するフジテレビの付与率 5.2%

【解説放送付与番組】

『ワンピース』『はやく起きた朝は…』『ちびまる子ちゃん』『サザエさん』『MUSIC FAIR』、金曜や土曜の単発ドラマや邦画など

■ 映画

2018年度に公開したすべての映画に日本語字幕を付けました(後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕を付与)。また、視覚障害者のお客さまにも映画をお楽しみ頂けるよう「音声ガイド」を付けたバリアフリー上映も増え、2018年度は以下の8作品に付与しました。

『いぬやしき』『万引き家族』『劇場版コード・ブルー』『累』『人魚の眠る家』『ドラゴンボール超 ブロリー』『マスカレード・ホテル』『翔んで埼玉』

■ 手話放送 『テレビ寺子屋』[毎週日曜日 5:10～5:40 放送]

アナウンサーによる蔵書朗読録音ボランティア

2009年より日本点字図書館にて、アナウンサーが蔵書朗読録音ボランティア活動を続けています。視覚障害者にも読書に親んでもらうため書籍を音訳し録音、インターネットで配信しています。

国連ウィメン日本協会への寄付

途上国を中心に世界中の女性に教育と労働の場を、と活動する国連ウィメン。SDGsの目標のひとつ、ジェンダー平等な世界をめざし女性のエンパワメントを行う同協会を支援しています。

世界の子どもたちの貧困解決に向けて

FNSチャリティキャンペーン



FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマに実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社及びBSフジが放送やイベントを通じて募金活動を行い、日本ユニセフ協会を通じて国際貢献を行ってきました。45年に及ぶ活動の募金総額は約43億円に達しており、アジア・アフリカなど世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。

■ ロヒンギャ難民 in バングラデシュ

2018年度は、バングラデシュのキャンプで暮らすロヒンギャ難民を支援しました。120万人を超える彼らの多くが、ミャンマーでの差別や迫害によるトラウマを抱えたり、病気や飢えに苦しみながら、明日の見えない生活を続けています。また劣悪な環境下、下痢や栄養不良に陥っている子どもが数多くいます。この状況を伝えるため、取材班は2週間あまりにわたり現地を取材、情報番組『とくダネ!』で放送し、支援を呼びかけました。

また、全国のフジテレビ系列局とともに様々な募金活動を行いました。



【放送実績】

- フジテレビ『とくダネ!』内で山中章子アナによる報告
2018年5月10日・11日放送
- BSフジ 2018年8月25日・26日・9月1日放送
- CS TWO/NEXT 2018年10月4日～2019年1月23日の間13回放送

【イベントにおける募金活動】

- 山中章子アナによる現地取材報告講演会(大阪、東京、広島)
- 「ふるさと祭り東京2019」会場 全国地酒ブース
- 「キュリオス」会場内「くるくる募金箱」
- その他系列各局イベント



2018年度の最終寄付総額 8,454万3,302円

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に活用されます。

世界の文化芸術の普及・向上に貢献

高松宮殿下記念世界文化賞

フジサンケイグループの取り組み

「高松宮殿下記念世界文化賞」は、公益財団法人 日本美術協会により1988年に創設された、全世界の芸術家を対象にした顕彰制度です。故高松宮殿下の「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」とのご遺志に基づき創設されました。文化芸術の振興こそが人類の平和と繁栄に資するとして、国境や民族の壁を超えて、芸術の発展、普及、向上に顕著な貢献をした個人、団体を顕彰しています。30回目を迎えた2018年度の授賞式は、10月23日、常陸宮同妃両殿下をお迎えし、東京・元赤坂の明治記念館で行われ、常陸宮殿下から受賞者に顕彰メダルが授与されました。また、若手芸術家奨励制度には、シェイクスピア・スクールズ財団が選ばれました。

授賞式に先立ち、同日午前、天皇皇后両陛下(現上皇皇后陛下)、常陸宮同妃両殿下ご臨席のもと、世界文化賞30周年記念レセプションが開かれました。創設以来の受賞者数は30ヶ国、154人となり、フジテレビは同賞の趣旨に賛同し、創設以来、社を挙げてサポートしています。



©日本美術協会/産経新聞

【第30回 高松宮殿下記念世界文化賞 受賞者】

絵画部門: ピエール・アレシンスキー氏(代理: ミシェル・ドラゲ氏)
彫刻部門: 中谷美二子氏
建築部門: クリスチャン・ド・ポールザンパルク氏
音楽部門: リッカルド・ムーティ氏
演劇・映像部門: カトリーヌ・ドヌーヴ氏

■ 『高松宮殿下記念世界文化賞特番』を放送

フジテレビ 2018年10月31日 24:35~25:35 放送
BSフジ 2018年11月4日 17:00~18:00 放送

「高松宮殿下記念世界文化賞公式」
<http://www.praemiumimperiale.org/ja/>

3 地球環境のために



環境番組を継続放送

環境問題がクローズアップされる中、2018年度は数々の番組を通じて気候変動や海洋プラスチック問題などについて伝えました。2017年に放送を開始したドキュメンタリー番組『環境クライシス』は、気候変動で生活環境が激変する中、たくましく生きる子どもたちの姿を描きながら過酷な現状を伝えてきました。2017年8月にインドにおける環境難民を取材した第1弾『環境クライシス～沈みゆく大陸の環境難民～』に続き、2018年度も継続して第2弾、第3弾を放送しました。

『環境クライシス2～凍てつく大地の環境難民～』

第2弾ではモンゴルを舞台に、夏の干ばつと冬の雪害が立て続けに起こる自然災害により、伝統的な生活を追われようとしている遊牧民の姿や、深刻な大気汚染に苦しむ首都ウランバートルで慣れない生活を強いられる元遊牧民＝“環境難民”（気候変動による自然環境の変化で、住む土地や家を奪われ、避難を強いられた人々）を紹介しました。

[2018年5月26日 15:30～16:30 放送]

■ COP24 ジャパン・パビリオンでも上映

この番組は、ポーランドのカトヴィツェで2018年12月に開催されたCOP24のジャパン・パビリオンで上映されました。



『環境クライシス3～水没するアジア巨大都市の環境難民～』

国連は「2018年、地球上で最も多くの被災者(3,500万人)をもたらした災害は洪水だ」と報告しており、「気象崩壊の年」と気象学者らによって名付けられました。こうした状況を受けて、第3弾では、このまま地球温暖化が進んだ場合、アジア太平洋地域で最も洪水災害が発生すると言われているインドネシアの首都ジャカルタを取材。地盤沈下と海面上昇、近年頻発している豪雨による都市水害・洪水被害にさらされているインドネシアの“環境難民”が、生活を奪われつつもたくましく生き抜こうとする姿、その子どもたちの生活を放送しました。

[2019年3月23日 15:30～16:30 放送]



『とくダネ!』で「世界の危機が伝える日本の未来」と題し社会課題を特集

朝の情報番組『とくダネ!』(月～金 8:00-9:50 放送)で、フジテレビ開局60周年企画として「世界の危機が伝える日本の未来」と題し、5日間にわたって世界で起きている諸問題について放送しました。山崎夕貴キャスターやコメンテーターの古市憲寿さん、古坂大魔王さんなどが現場を訪れ、格差社会、水不足、地球温暖化で沈む島、世界のゴミ問題などについてレポートし、その深刻さを視聴者に届けました。

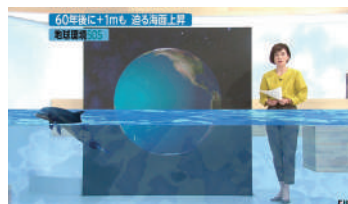
[2019年3月25日～29日 放送]



ニュース番組『プライムニュースデイズ』で「地球環境SOS」シリーズを放送

2018年はかつてないほど「地球環境」が注目されました。夏の記録的な猛暑、甚大な被害をもたらした豪雨や大型台風、更に多くの国や地域、企業によるプラスチック製品規制の動き。「気候変動」「環境汚染」・・・これらは我々の生活スタイルにまで影響を及ぼしかねない問題です。『プライムニュースデイズ』ではポーランドでのCOP24の開催に合わせて、国内外の環境に関する現状や最新の取り組みを放送しました。環境保全の道のりは、まず知ることが第一歩と考えます。視聴者に考えるきっかけを提供すべく、欧州やアメリカなどの海外支局とも連携し、6回シリーズで特集しました。

[2018年12月3日～5日、12月11日～13日 放送]



『アースウォーカー』

滝川クリステルさんが生命の多様性と神秘に触れる大型ドキュメンタリーの9作目。今回のテーマは「水」とは何か、「川」とは何か。その答えを求めて、世界の屋根・ネパールのヒマラヤ山脈へと向かいました。高度4,000mの氷河に始まり、上流から下流へと急流をラフティングで下りながら、水が周囲に住む人々の生活そして流域に暮らす生き物たちにどんな影響を与えているかを伝えました。



・フジテレビ 『アースウォーカー』氷河からガンジスへ…豊かな水をたどる冒険 2018年12月31日 6:00～7:00 放送
 ・BSフジ 『アースウォーカー』ヒマラヤ「氷河の一滴」を追え! 2019年1月1日 19:00～20:55 放送

地球環境大賞特別番組

『地球環境大賞2018 生活を激変させた平成の新技术』

地球環境大賞受賞企業・団体の新技术をわかりやすく紹介する特別番組を放送しました。

- 消費電力の大幅削減に成功した調光可能なLED電球の開発現場
- 豊洲新市場における屋上緑化や太陽光発電、冷凍庫内の壁に使用される世界初の断熱パネルの秘密
- タイでタピオカの製造過程で生まれるデンプンかすからエタノールを作る技術
- 次世代車両システム A-train
- 東日本大震災で被害にあった宮城県東松島市に誕生した日本初の防災エコタウン
- 島根県宍道湖で環境保全に取り組む高校生の活動に密着



・フジテレビ(関東ローカル)2018年6月16日 15:30～16:30 放送
 ・BSフジ 2018年6月23日 15:00～16:00 放送

※地球環境大賞につきましては18ページをご参照下さい。

環境美化活動・省資源への取り組み

地域の美化活動に積極的に参加



お台場エリアの清掃活動を継続しています。フジ・メディア・ホールディングス全体での合同清掃活動を年3回開催している他、このエリアに事業所がある会社・団体からなる「東京臨海副都心まちづくり協議会」の清掃活動にも毎回参加。東京オリンピック・パラリンピックを2020年に控え、お台場を訪れる人たちが、快適に過ごして頂けるよう、地域の美化に貢献しています。

お台場エリアをより美しく快適に

「東京臨海副都心まちづくり協議会」の環境事業の一環として、2018年7月4日に「花と緑のおもてなしプロジェクト」、11月20日には「花と緑のフラワーフェスタ」に参加しました。シンボルプロムナード公園に、春に咲くチューリップの球根を約20万球植えるなど、都会にいなながら季節感や華やかさを感じられる新たな景観づくりを行っています。

また、7月19日には、「打ち水日和」プロジェクトに近隣の23社から108人が集まり、ひしゃくで水をまき暑さ対策を行いました。フジテレビからは13人が参加し、昔ながらの知恵を分かち合いました。



新人アナも参加



35.2度あった気温が打ち水後は33.1度に

廃材処理を通じた環境への取り組み

美術制作局では、番組セットなどを廃棄する際、処理を大道具制作会社に委託せず、全番組の廃材をまとめて廃棄業者に直接委託する「一括処理」を2010年から行っています。排出事業者としての責任を全うすると同時に、リサイクル率向上と処理費用の低減につなげています。

不用になった電池等をリユース

番組制作のために使用する乾電池。一度使用したものは放送機材への再利用が難しいため、まだ残量のある乾電池は社内で配布してリユースしています。不用になった機材は、可能なものはリユースし、リユースできない機材は金属としてリサイクルに出しています。この結果、廃棄物を減らすことに貢献しています。



リサイクル乾電池

環境課題に熱心に取り組む企業などを表彰

地球環境大賞



フジサンケイグループの取り組み

「地球環境大賞」はフジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、世界自然保護基金(WWF)ジャパンの特別協力を得て、1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。2018年4月9日には第27回の贈賞式が行われ、今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しています。これまでの受賞企業・団体は269に及びます(2018年4月現在)。フジテレビは、この「地球環境大賞」をサポートすることにより「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に役立ちたいと考えています。

■ 第27回受賞企業・団体

● 地球環境大賞 積水ハウス株式会社

環境・防災・地域活性化に貢献する
「東松島市スマート防災エコタウン」の取り組み

- | | |
|----------------|----------------------------|
| ● 経済産業大臣賞 | 九州電力株式会社 |
| ● 環境大臣賞 | 東洋インキSCホールディングス株式会社 |
| ● 文部科学大臣賞 | 国立大学法人名古屋大学 |
| ● 国土交通大臣賞 | 株式会社日立製作所 鉄道ビジネスユニット |
| ● 農林水産大臣賞 | サッポロホールディングス株式会社 |
| ● 日本経済団体連合会会長賞 | 日本軽金属ホールディングス株式会社 |
| ● フジサンケイグループ賞 | YKK株式会社 |
| ● 奨励賞 | 東芝ライテック株式会社 |
| | 出雲西高等学校 インターアクトクラブ・環境福祉コース |



秋篠宮ご夫妻をお迎えして東京・元赤坂の明治記念館で行われた授賞式



※ 地球環境大賞特別番組につきましては16ページをご参照下さい。
「地球環境大賞」 <http://www.fbi-award.jp/eco/>

地球環境のための社内の取り組み

社内の「3R」の取り組み

REDUCE[発生抑制] REUSE[再利用]
RECYCLE[再生]を呼びかけ、全社で地球環境改善のための取り組みを実施しています。

その結果、2018年度のゴミ分別率は**80.6%**と
目標の80%をクリアしました。


■ 温室効果ガス削減への取り組み

地球温暖化防止のため温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでいます。2018年度のフジテレビ本社ビルの二酸化炭素CO₂の排出量は21,772(速報値)トンで、15%の削減目標を大きくクリアして28%削減を達成しました。

お台場議定書

フジテレビ環境行動計画を
「お台場議定書」と
名付け活動の柱としています。

私たちは地球環境のためにできることは何かを考え、身近な生活の中でひとりひとりができることを実行するのはもちろん、企業としても環境に配慮した活動を行っています。

- 1 一緒にエコ考えよう
- 2 一緒にエコしよう
- 3 一緒にエコ確かめよう 

4 災害復興支援



©長谷川町子美術館

オリジナルの被災地復興支援活動を展開 「ずっとおうえんプロジェクト」

フジテレビ
ずっとおうえん。
プロジェクト

フジテレビでは、2011年の東日本大震災発生後から被災地復興支援活動を継続しています。被災地を「ずっと」忘れないという強い思いと、エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、被災地に笑顔を届けています。2018年度は東日本大震災の復興支援の一環として「東北・みやぎ復興マラソン」をサザエさん一家が応援に行ったり、西日本豪雨で大きな被害を受けた広島県、岡山県、愛媛県で『サザエさん』の上映会や食育出前授業「ハロー！どっこくん」を、また、北海道胆振東部地震で被災したむかわ町でも、『サザエさん』の上映会を開催しました。



■ 2018年度実績



●『サザエさん』上映会

- 9月29日 岡山県倉敷市船穂公民館
岡山県倉敷市真備町岡田小学校体育館(サザエさんグリーティング)
- 11月17日 広島県熊野町公民館
- 11月18日 広島県三原市本郷生涯学習センター
- 12月11日 北海道むかわ町ひかりこども園・むかわ放課後子どもセンター
- 12月12日 北海道むかわ町さくらこども園・穂別放課後子どもセンター



●「ハロー！どっこくん」

- 4月1日 熊本県益城町グランメッセ熊本「こども博2018」
- 8月18・19日 岩手県釜石市「めんこいまつり」
- 9月12日 広島県坂町坂みみょう保育園・熊野町くまのみらい保育園
- 10月18日 愛媛県宇和島市吉田愛児園・西予市野村保育園
- 3月30・31日 熊本県益城町グランメッセ熊本「こども博2019」

2018年度 **15**ヶ所 約**2,880**人を対象に実施

2011年からの累計 **202**ヶ所 約**24,700**人

(2019年3月末現在)

継続的な支援活動

「東北・みやぎ復興マラソン」

2017年から始まった仙台放送主催の「東北・みやぎ復興マラソン」は復興への願いを込めた大会です。東日本大震災の浸水エリアがマラソンコースとなっていて、被災地の今を全国に発信しています。

「ずっとおうえんプロジェクト」では、サザエさん一家のステージイベントを開催したり、車いすジョギング、親子ペアラン、フルマラソンに登場したサザエさん一家のサポートなどを行い、大会を盛り上げました。

[2018年10月13日・14日 開催]



©長谷川町子美術館



テレビ美術の力で被災地に笑顔を

「こども笑顔プロジェクト」

このプロジェクトは、フジテレビ美術制作局と美術関連会社からなる「八美会」で立ち上げた被災地支援活動です。2018年度は、11月3日に福島県川内村にて開催。川内村は、福島第一原発から直線距離にしてわずか21km、山ひとつ越えた向こうにあります。避難解除から2年、住民帰還率はおよそ8割で、地震や津波による直接的な被害の記憶が徐々に風化していく中、二次災害とも言える原発事故の影響は未だ大きく、改めて「被災」という言葉の重みを考えさせられました。

7回目となる「こども笑顔プロジェクト」は、2年前から開催されている村おこしの一環である「かわうち秋祭り」とコラボしました。今回も多くの子どもたちの笑顔を見ることができ、お祭りも盛り上げることができました。

[2018年11月3日 開催]



ちびまる子ちゃんに変身



鉛細工のビール瓶割り



ポーズをCGで合成



災害報道—伝える責任—

東日本大震災から8年・熊本地震から2年の現状を放送

公共性の高いメディアであるテレビ局にとって、震災などの災害報道は重要な「使命」と認識し、常に「迅速」かつ「正確」な報道を心がけています。震災報道の基本姿勢を定め、国民の命を守るための報道、即応体制の構築、災害の記憶を風化させないための継続的な報道などに努めています。取材にあたっては、被災した方の感情に配慮することを常に心がけています。2018年度も報道番組・情報番組にて災害のニュースを伝えるとともに、過去に自然災害に見舞われた被災地の「今」を伝えました。

『わ・す・れ・な・い ～平成最後の証言～』

東日本大震災を膨大な数の映像と証言で検証し続けてきた『わ・す・れ・な・い』シリーズ。震災から8年が経過した2019年は、ラグビーW杯の開催地にもなっている、岩手県釜石市に焦点を当てました。今回の取材で、釜石では防波堤が津波の威力を食い止めていたという研究結果が明らかになりました。本当の津波の脅威はどれほどのものだったのか、改めて映像を検証。また、被災の貴重な証言から避難行動の「ロス」が教訓として浮き彫りになりました。次世代に語り継がれるべき新たな「証言」に加え、番組独自の映像検証を交え、命を守るための行動を考えました。次の時代に残したい平成最後の震災の教訓です。

[2019年3月11日 15:50～16:50 放送]



『バイキング』坂上忍 お手伝いの旅

『バイキング』(月～金 11:55～13:45 放送)では、坂上忍さんが東北の被災地を訪問してお手伝いする旅を5日間放送。3年目となったこの企画、今回は岩手県に赴き、津波の被害にあった漁港での「わかめ採り」のお手伝いや3月に閉校する小学校で授業を行ったり、被災を乗り越えて結ばれたカップルの結婚式にサプライズ登場！更に全国大会に挑む少年野球チームとふれあい、勝負の結果、校庭に土をプレゼント。更に、リアス線の全線開通を控えた三陸鉄道に乗り、地元企業の方々と名産品を味わいながら心を通わせました。

[2019年3月4日～8日 放送]



西日本豪雨の被災地復興支援のため「サザエさん募金」を実施

フジネットワーク(FNSフジテレビ系列局)では、7月に発生した西日本豪雨の被災地の復興を応援するため、サザエさん募金を実施(7月9日～8月31日)、フジ・メディア・ホールディングス各社の協力も得て支援を募りました。

募金総額 2億1,394万8,254円 を日本赤十字社へ義援金として寄付しました。



©長谷川町子美術館

国民に安心・安全を届けるため 放送を継続する責任

災害放送訓練

フジテレビでは、系列各局と協力して毎年大規模な災害放送訓練を実施しています。2018年度は、2017年度に続き「南海トラフ地震に関連する臨時情報」が発表された場合を想定し、報道特別番組をシミュレートしました。実際の運用事例がまだない中で、臨時情報に初めて接する視聴者にいかにわかりやすく伝えていくのか、今後も更なる検討が必要で、訓練で浮かび上がった問題点を分析し各局の態勢作りに活かしています。また、土日や深夜帯など報道スタッフが少ない時間帯に災害が発生した場合にも、速やかに放送できるよう、2週に1回の頻度で定期的な訓練を行っています。



春と秋に「防災デイズ」を実施

放送を継続することは、メディアとしての重要な使命です。2011年から「防災ウィーク」と称して社内働く社員・スタッフを対象とした防災訓練を毎年春と秋に行っています。いずれも5日間にわたって実施し、多くの社員・スタッフが参加。2018年度は「防災デイズ」と名称を改め、全社一斉避難訓練をはじめ、VR防災体験車&起震車体験や普通救命講習、更に大阪北部地震や北海道胆振東部地震での被災体験について系列局を招いて講演会を開催するなど、有事の際に放送局として取るべき行動への理解を深めました。



PICK-UP

フジ・メディア・ホールディングス各社で桜の苗木を寄付

「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」

地震や津波、更に放射能被害を受けた福島県で「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を」との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」に、フジ・メディア・ホールディングス(FMH)各社は2013年度から協賛しています。2018年度はディノス・セシールの顧客・FMH各社などから合わせて桜153本分の寄付をし、2019年2月24日に相馬市で桜の苗木を植えました。これまでの植樹本数は1,175本になりました。



28年目を迎えた“自社批評”番組

『週刊フジテレビ批評』 [毎週土曜日 5:30~6:00 放送]

自局の番組やテレビ界に関する様々なトピックスを視聴者に届けるこの番組は、民放初の自社批評番組として1992年にスタートしました。内容は、視聴者の声や番組審議会の模様を紹介する他、バラエティやドラマ、ニュース番組制作の舞台裏を披露したり、4KやVRなど最新放送技術を詳しく解説、また視聴率やBPO、放送法などテレビに関する疑問に答えるなど、多彩な企画で“テレビ”をより深く理解してもらい、メディアリテラシーの向上につながるような番組作りを追求しています。



視聴者と番組をつなぐ架け橋

視聴者サービス推進室は、フジテレビの「窓口」として、電話やメール等で寄せられる視聴者からのご意見・お問い合わせをコミュニケーションを図りながら伺い、今後の番組制作等に役立つよう番組制作者や関係各部署に伝えています。また、毎日のように寄せられる視聴者からの情報提供は、他局に先がけたスクープにつながることもたびたびで、番組が生まれるきっかけになることもあります。フジテレビのファンをひとりでも増やすため、お電話を下された視聴者の方にこちらから好みに合いそうな番組をおすすめするプロモーション活動にも力を入れています。

2018年度に頂いた視聴者の声

お電話でのご意見	約13万件(1日平均 約360件)
メールでのご意見	約28万件(1日平均 約770件)



番組審議会

番組審議会は、放送番組の適正を図るため、放送法に基づき設置されている審議機関です。2019年4月現在、有識者で構成された審議委員は9人。月に1回(8月・12月は休会)、様々なジャンルの番組を審議対象に委員から忌憚のないご意見やご指摘を頂き、社長、担当役員、局長他、番組担当者とのディスカッション等を行っています。議事内容は制作現場へフィードバックされ、番組作りに活かされています。また、議事録ダイジェストを社内に共有、概要はホームページに掲載する他、『週刊フジテレビ批評』内でも放送し公表しています。

社外モニター制度

一般視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対するご意見を伺っています。アンケート結果や詳細なレポートは制作担当者に届けるとともに、社内イントラネットへの掲載や冊子の配布を通じ、社内に共有しています。また、月に1度「社外モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について直接意見交換を行っています。



人材育成

人材の多様性

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。新卒採用では、海外の大学を卒業する留学生や、日本の大学を卒業する外国人留学生の採用も行っています。障害者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。また、定年を迎えた社員も65歳までの継続雇用を行い、それまでの経験を活かした業務や後進育成を担っています。採用活動とは別に、仕事の理解を深めてもらうためアナウンサー、バラエティ、ドラマ、報道、情報、スポーツ、美術、CG、技術部門で学生に向けた就業体験を行っています。

研修制度

社員ひとりひとりが、自らの成長を実感しながら日常の仕事に取り組めるよう様々な研修制度やセミナーの充実を図っています。



2018年度新入社員たち

働きやすさを支援する制度

社員が働きやすい職場環境を実現するために会社の制度としてサポートする体制を整えています。

育児支援

最大2時間までの時短を子どもが小学校1年生の5月末までの希望する期間取得できる他、養育のために小学校就学前まで休職することができます。復職の際は、スムーズな職場復帰をサポートするために先輩社員との懇談の場を設けています。ベビーシッターや学童保育などの利用には特別補助もあります。

復職支援

長期の傷病休職から復職する際に、円滑に復職できるように、復職支援制度を設けています。

ジョブリターン制度

配偶者の転勤や家族の介護を理由に退職する社員を対象に、会社に復帰できる制度を設けています。

社員の個人的な社会貢献の支援

個人的に社会貢献を行う際、活動内容を会社に申請することで、休暇を取りやすくなるように支援しています。

介護支援

家族に介護が必要になった場合、最大1年間の介護休業などを取得できます。また、介護用品の購入や訪問介護の利用に特別補助を行っています。

疾病予防への取り組み

疾病予防への取り組みとして、定期的な健康診断に加えて、人間ドック、脳ドック、婦人科検診の受診サポートをしています。また、生活習慣予防指導の一環として、対象者に「生活改善プログラム」への参加を促したり、食堂で「産業医おすすめバランスごはん」「サラダバー」など、栄養バランスを考えたメニューを提供しています。

また、毎年様々なセミナー（ストレッチ等）も実施して、社員・スタッフの健康維持に努めています。

献血の実施

輸血用血液が不足する冬季に日本赤十字社に協力し、社内献血活動を行っています。

女性活躍推進

女性活躍推進法

女性活躍推進法に基づく行動計画として次の2点を目標としました。

目標1 「採用した労働者に占める女性労働者の割合」が30%以上になるように意識して採用活動を進める。

目標2 「労働者に占める女性労働者の割合」で20%以上という国の定める目安の値を中長期的な期間でも維持できるよう努力する。

平成30年度
採用実績 **29.4%**

平成31年3月末
実績 **24.9%**

人権について

全ての人間は性別、年齢、国籍、民族、宗教等を問わず、人間らしく生きる権利を持っています。この権利は全ての人々に平等であり、奪うことはできません。これが「人権」であり、この権利を社会全体で守り、尊重することによって人々が自由となり、平和に暮らせる社会が築かれていきます。

フジテレビでは、番組基準を定め、基本的人権の尊重をそ

の基本方針の1つとしています。取材、番組制作、放送等において、人権を侵害することがないように真摯に取り組んでいます。

放送人としての基本的な規範をまとめた「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」(一般社団法人日本民間放送連盟発行)を全社員・スタッフに配布しています。



コーポレート・ガバナンス

フジテレビは、国民共通の財産である電波を預かり放送事業を営んでいます。そのため基幹メディアとして、緊急災害放送などライフラインの機能を維持し、責任あるコンテンツを送り届けるといった使命を担っています。テレビが国民にとって身近なメディアであり、社会に与える影響が大きいことを十分に認識し、放送の公共性を重んじ、放送内容が国民の基本的人権を擁護するものとなるよう努めることで、社会的責任を果たして参ります。

業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

業務の適正を確保するための体制

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、並びに損失の危険の管理に関する規程その他の体制

(1) 当社の取締役及び使用人は、当社の経営理念・経営基本原則に基づいて制定したフジテレビ行動宣言を常に意識し、その遵守に努めます。特に番組制作や報道取材などにおいては、放送の公共性を重んじ、言論・表現の自由を守るよう努めます。

(2) 当社は、「コンプライアンス及びリスクの管理に関する規程」(以下「コンプライアンス等規程」という)等に基づき、当社の社内体制の整備等を行い、法令・定款遵守の実効性の確保を図ります。

① 組織体制

当社の代表取締役社長は、「コンプライアンス等規程」等に基づき、当社の当該関連業務を統括・推進します。また、当社取締役・執行役員等を構成メンバーとするコンプライアンス及びリスクの管理に関する委員会(以下「コンプライアンス等委員会」という)、及び中堅社員を構成メンバーとするコンプライアンス等担当者会議を組織化することによって、当社の経営及び事業全般に重要な影響を与えるコンプライアンス上の問題ないしはリスクへの対応を図ります。

② 教育・研修

当社は、適宜、社内説明会の開催や、イントラネット及び社内報などへの関連資料の掲載などにより、当社の取締役及び使用人の当該プログラムへの周知と、その理解を促進する活動を行います。また、当社はコンプライアンス及びリスクの管理に関する定期的な社内研修を実施する他、コンプライアンス等担当者は各部署において、意識を高める活動を展開します。

③ 財務報告の信頼性

当社は、当社の業務が健全に行われるよう十分に配慮しつつ、財務報告の信頼性を確保するための内部統制システムの構築に努めます。

④ 内部監査

当社は、「内部監査規程」に基づき、当社の全部門と当社子会社を対象として、会計及び業務に係る定期監査並びに臨時監査を行い、当該会社の業務全般が法令、定款及び社内規程に照らして適正かつ有効に行われていることを確認します。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社の取締役の職務の執行に係る情報については、これに係る当社の管理規程に基づき、その保存媒体に応じて適切かつ確実に検索性の高い状態で保存・管理し、所定期間、閲覧可能な状態を維持することとします。

3. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役は、効率経営の確保に向けて、業務の合理化・迅速化等を継続検討します。

4. 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社及び当社の子会社（以下「当社グループ」という）から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制について、以下の通り、整備・実施します。

- (1) 当社は、当社の子会社の取締役及び使用人が法令、定款、社内規則及び企業倫理等を遵守した行動をとり、かつ、効率的な業務執行が行われるよう、「関係会社管理規程」等に基づく横断的な管理を推進します。
- (2) 当社は、当社子会社とその業容と会社規模に応じ、自律的にコンプライアンス及びリスクの管理が機能する体制の構築を推進するとともに、グループ経営に重大な影響を及ぼすリスクへの対応については、当社が状況を的確に把握する体制を構築します。
- (3) 当社は、親会社である株式会社フジ・メディア・ホールディングスとも連携を図り、子会社各社におけるコンプライアンス及びリスクの管理が機能する体制づくりを推進します。

5. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項、監査役の職務を補助する使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性に関する事項

当社の監査役は、監査役間の協議に基づいて、監査役スタッフを任命します。監査役スタッフは、監査役の職務の補助、及びこれに付随する事務を行います。なお、これら業務については、職務分掌において、当社の総務部が担当することを定め、監査役スタッフは当社従業員として当社の就業規則に従いますが、原則として、その指揮命令権は各監査役に属し、取締役は監査役スタッフに対する指揮命令権を有しないものとします。また、監査役スタッフの人事考課、人事異動及び懲戒等については、監査役の意見を徴するものとします。

6. 当社の取締役及び使用人、並びに子会社の取締役、監査役、及び使用人（以下「当社グループの取締役等」という）が、当社の監査役に報告を行うための体制

当社グループの取締役及び使用人等が、当社の監査役に報告を行うための体制について、以下の通り整備・実施します。

- (1) 当社グループの取締役等は、以下に定める事項について適宜報告を行います。
 - ① 業務又は財務に重大な影響を及ぼすおそれのある事実（当社グループ各社に関するものを含む）を知った場合。
 - ② 取締役及び使用人の職務遂行に関して不正行為、法令・定款・社内規則に違反する事実（当社グループ各社に関するものを含む）を知った場合又は社会通念に反する行為が発生する可能性若しくは発生した場合で、当該事実又は行為が重大である場合。
 - ③ その他緊急・非常事態を知った場合。

(2) 当社グループの取締役等は、当社の監査役に対し、以下に定める事項について定期的又は必要に応じて報告を行います。

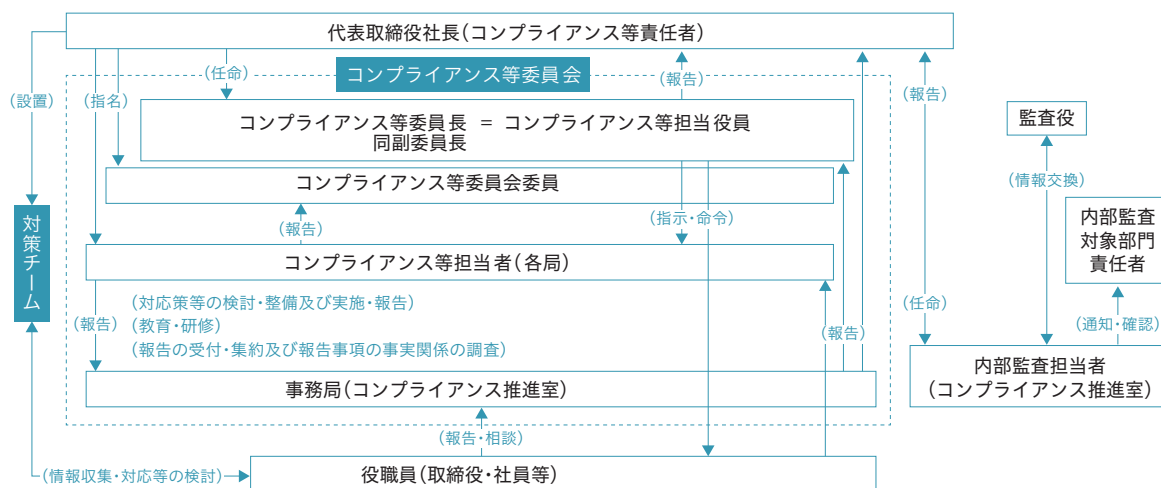
- ① 毎月の月次会計資料
- ② 内部監査報告書及び各部門からの主要な月次報告書
- ③ 重要な訴訟事案
- ④ 内部統制に関わる部門の活動概要
- ⑤ 重要な会計方針・会計基準及びその変更
- ⑥ 業績及び業績見込みの発表内容、重要開示書類の内容
- ⑦ 当社グループ各社における営業の報告
- ⑧ 当社グループ各社の監査役の活動概要
- ⑨ その他重要な事項等

(3) 当社グループの取締役等は、当社の監査役からその職務の執行に関する報告を求められた場合、速やかに当該事項を報告します。

(4) 当社グループの取締役等が、上記(1)(2)(3)に該当する報告を当社の監査役に対して行ったことを理由として、不利益な取り扱いを受けることがないことを社内規程等に定めます。

(5) 監査役の職務全般にかかる費用は当社が負担するものとします。

内部統制の仕組みは以下の通りです。



▼業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要につきましては、フジテレビホームページをご覧ください。
<https://www.fujitv.co.jp/csr/management/governance.html>

情報セキュリティ

フジテレビは、「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」を定め、全社的に情報セキュリティの考え方(「情報セキュリティガイドライン」)を周知徹底しています。また、昨今急増するサイバーテロによる個人情報流出等に備え、個人情報の保有状況等を把握するとともに、ITリスク対応会議を中心に対策・対応に努めています。

▼詳しくはこちらをご覧ください。「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」
https://www.fujitv.co.jp/csr/management/security_basic_policy.pdf

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

2011年10月、東京都暴力団排除条例が施行され、これを受けて日本民間放送連盟(民放連)が「反社会的勢力に対する基本姿勢」を発表し、「出演契約における反社会的勢力排除についての指針」をまとめ公表しました。適正な社会秩序維持に脅威を与える反社会的勢力との関係を遮断することは社会的責任であり、また、会社資産の流出等の防止はもとより企業防衛に資するものと考えます。フジテレビは、この民放連の「基本姿勢」と「指針」を遵守し、施策を講じております。

▼詳しくはこちらをご覧ください。
「日本民間放送連盟ホームページ」 <https://www.j-ba.or.jp/>

コンプライアンス

フジテレビでは、放送の公共的使命と社会的責任を認識し、全ての人々が平和に共存し、心身ともに健やかな生活を維持できる世界の実現につとめることを番組編成の基本として掲げています。自主自律・不偏不党の立場を堅持し、公平かつ平和で自由な社会を守るために、真実の伝達と品位ある放送を行うことで「メディアとしての使命」を果たすとともに、放送以外においても「法令遵守への高い意識」を持ち続け、社会からの信頼に誠実に応えて参ります。

フジテレビのコンプライアンス体制

フジテレビでは、「コンプライアンス及びリスクの管理に関する規程」に則り、コンプライアンス体制を整備しています。

フジテレビの取り組み

● コンプライアンス社内・社外相談窓口

コンプライアンス違反やハラスメントなどの相談窓口を設置しています。フジテレビで働く全ての関係者を対象として、直通電話かメールで通報、相談ができます。2018年度から「社外窓口」を新設し、より相談しやすい環境を整えました。



社外相談窓口を新設

● 放送コンプライアンス関連会議体

2018年度、会議体のあり方を改善、編成担当役員を委員長として局長級で構成する「放送コンプライアンス委員会」を頂点に、子会にあたる「同小委員会」(各・月1回開催)、週1回開催で放送に関する事案を速やかに共有する「同連絡会」を一本化しました。迅速な情報共有とともに再発や未然防止に向けて、非制作セクションからもメンバーが参加し活発な意見交換を行っています。

● eラーニング コンプライアンス研修

フジテレビで働く社員・スタッフを対象(約4,270人)に、毎年、実施しています。

考査や法務をはじめ、コンプライアンス関連の実際の相談例をもとに「具体的な問題」を数多く出題することで、より実践的な研修としています。



eラーニング コンプライアンス研修2019

● ハラスメント防止研修

役員及び部長級以上の社員を対象に、ハラスメントを「しない」は勿論、起こさない組織作り、起きてしまったときの対応など、実例に基づいた講演と議論で意識の向上を図りました。



ハラスメント防止研修

● 標的型攻撃メールの体験型訓練

サイバーセキュリティに対する注意喚起を促すため、社員・スタッフに「標的型攻撃メール」が実際に届けられる体験型訓練を実施しました。また、eラーニング研修でもセキュリティ知識の啓蒙を行っています。



標的型攻撃メールを開いた場合の警告画面

● 児童・青少年への配慮

民放連による「青少年の知識や理解力を高め、情操を豊かにする番組を少なくとも週3時間放送する」との申し合わせに基づき、民放テレビ各社は、毎年、春と秋に公表しています。

2018年秋にフジテレビが選定した番組は、以下の6番組です。



▼ 詳しくはこちらをご覧ください。

「日本民間放送連盟ホームページ」 <https://www.j-ba.or.jp/>



©チャギントン

『ボクラの時代』

ボクラの時代

『ちびまる子ちゃん』



©さくらプロダクション/
日本アニメーション

『サザエさん』



©長谷川町子美術館



岡室 美奈子 | 早稲田大学教授・坪内博士記念演劇博物館館長

Okamuro Minako

1958年生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程満期退学。ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン大学院博士課程修了。文学博士。専門はテレビ文化論と現代演劇論。2016年よりフジテレビ番組審議会委員。他に番組放送センター理事、日本演劇学会理事、デジタルアーカイブ学会評議員などを務める。

CSR (Corporate Social Responsibility) が、利益追求や法令遵守だけでなく、人権を尊重した適正な雇用、消費者への適切な対応、環境への配慮、地域社会への貢献など、企業が果たすべき社会的責任を指すことはよく知られている。加えて、2015年には国連サミットでSDGs (Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標) が全会一致で採択され、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、貧困、飢餓、教育、ジェンダー、エネルギー、気候変動、平和など17の国際目標が掲げられた。企業がこうした理念の実現のために真摯に取り組むことが重要であることは言うまでもないが、放送局には、その発信力・影響力の大きさから、とりわけ高い意識と積極的な取り組みが求められる。

そうした期待に応えて、フジテレビがCSR推進会議を中心にSDGsの実現に向けて多彩な活動を展開していることが、本誌を通読すればよくわかる。出前授業プロジェクトである「あなせん」や「ハロー！どっこくん」といったアウトリーチ活動も継続的に行われているが、ここで特に注目したいのは、放送局ならではの「放送」を通じての取り組みである。

なかでも、2017年に放送を開始したドキュメンタリー『環境クライシス』シリーズは特筆に値する。丁寧な海外取材と綿密な調査、そして高い意識に裏打ちされた番組は、放送局としての良心や良識が凝縮された貴重な取り組みであり、こうした番組が民放の地上波で放送されて多くの視聴者の目に触れることには大きな意義がある。現在のところ3本が制作されており、膨大な取材費用や時間、豊富な人材が必要ではあろうが、気候変動や環境破壊は人類の存続にかかわる現在進行形の深刻な問題なので、社を挙げての取り組みとして

ぜひ継続してほしい。

また、『フューチャーランナーズ〜17の未来〜』は5分ほどのミニ番組ながら、SDGsの実現のために様々な問題の解決に向けて努力する人々を取り上げ、第2回「ジャパンSDGsアワード」パートナーシップ賞を受賞するなど高く評価されている。英語字幕も付されていて、多様な視聴者がSDGsに関心を持つ契機となりうる優れた番組である。欲を言えば、5分では紹介に終わってしまいがちで、実際の問題点や苦勞が伝わりにくく、せつかくの有意義な取り組みがもたないようなにも思う。それぞれの活動に対する視聴者や企業の共感や理解を促すためにも、今後の拡大に期待したい。

さらに、放送を通じた取り組みとしては、ドキュメンタリーや情報番組だけでなく、一般への浸透力の高いドラマも重要である。近年、さまざまなマイノリティを描いた多様性をテーマとするテレビドラマの制作が各局で増加しているのは、歓迎すべきことだと思う。2018年にはフジテレビで『隣の家族は青く見える』が放送され、妊活に励む夫婦や同性愛カップルが、さまざまな困難に直面しながらも乗り越えてゆく姿を生き生きと描いて好評を博した。このドラマが、厚生労働省の「ポジティブ・シェアリング」および「こころの耳」とのタイアップ・キャンペーンを行ったことも記憶に新しい。また、海外ドラマのリメイクではあるが、自閉症スペクトラム障害・サヴァン症候群である小児外科の研修医を主人公とする『グッド・ドクター』を放送し、話題を呼んだ。こうしたドラマは障害者のみならず小児科医の現状への理解を深める点でたいへん意義深いものである。主人公をあまりにもピュアで天才的な人物として造形したがゆえに、障がい者の苦勞や困難がむしろ見えにくくなったきらいはあるものの、志の高いドラマであったと思う。

さて、来年はオリンピック・パラリンピック・イヤーである。フジテレビには、オリンピックの陰に隠れがちなパラリンピックへの関心を高めることはもちろんだが、単なるお祭り騒ぎに終始せず、スポーツや文化を通じて人類や社会の未来を考えるような、まさに持続可能な社会を目指す良質な番組作りと社会貢献を期待したい。CSR推進会議の腕の見せどころである。また、これまでCSR活動の一環として継続してきた復興支援も、オリンピック・

パラリンピックと切り離せないものとして、重点的に力を入れてほしいと願っている。

CSRやSDGs関連の諸活動への期待は尽きないが、こうした活動が番組全体の質的向上やフジテレビへの信頼度アップにつながるべきだし、その活動を、社内はもちろん企業や一般の視聴者も十分に理解し、支援していくことが重要であろう。

ご意見を受けて



和賀井 隆

Wagai Takashi

常務取締役
CSR担当

岡室先生には、貴重なご意見を頂き、御礼申し上げます。

CSRとSDGsに対する企業の取り組みについて、放送局に求められるとりわけ高い意識と積極的な取り組みの必要性をご指摘頂き、その影響力の大きさに改めて責任の重大さを感じております。

近年のCSR活動においては、本業を通じての取り組みが重要視されていますが、フジテレビの本業である「放送」を通じた取り組みにおいて、『フューチャーランナーズ』や『環境クライシス』などSDGsと向き合った番組を評価して頂いたことをうれしく感じるとともに、メディア企業の一員として更なる努力を求めるみなさまからの声を真摯に受け止めて精進したいと思います。

SDGsには環境問題をはじめ、ダイバーシティ(多様性)やLGBT、人権など様々な目標が含まれていますが、2020年に迫ったオリンピック・パラリンピックは、そのゴールとされる2030年への通過点として重要な役割を果たすことになると思います。これを「伝える」役割を果たすだけでなく、視聴者がそれぞれの未来について考える「きっかけ」をつくれるように、フジテレビらしいCSR活動を充実させていきたいと思っております。

会社概要

商号	株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
事業所	本社 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号
設立	平成20年10月1日(新設分割による)
放送開始	昭和34年3月1日
資本金	88億円
従業員数	1,323名(2019年3月31日現在)

フジテレビCSRレポート2019

ホームページでもCSRの取り組みを開示しています。

2019年6月21日発行

<https://www.fujitv.co.jp/csr/>

